SHARP

2024年度
福山事業所 環境レポート

はじめに

シャープ福山事業所は、操業当初より地球環境保全に積極的に取り組んできました。このレポートは、当事業所における2023年度の環境取り組みの実績をまとめたものであり、地域にお住まいの方々をはじめ、近隣の学校、企業、行政、NPOの皆様、そして所内の従業員に対して、事業所の環境への取り組み姿勢や活動について理解を深めていただくことを目的としています。

当事業所からの一方的な活動報告にとどまらず、このレポートを通じて皆様と共に環境問題について話し合うきっかけとなればと考えています。

もくじ

◆はじめに・もくじ ･･･P1

第１章　福山事業所の紹介

◆事業所の概要 ･･･ P2
◆施設の紹介 ･･･ P3
◆製品の紹介 ･･･ P4
◆製造工程の紹介 ･･･ P5

第２章　福山事業所の環境活動

◆環境方針 ･･･ P7
◆環境管理推進体制 ･･･ P8
◆2023年度 環境負荷状況 ･･･ P9
◆2023年度
環境取り組み目標と活動結果 ･･･ P10
●地球温暖化防止に関する取り組み
エネルギー使用量の削減 ･･･ P11
●廃棄物に関する取り組み
廃棄物の適正管理・削減・
資源の有効利用促進 ･･･ P12
●化学物質に関する取り組み
PRTR対象物質の適正管理 ･･･ P13
◆環境法規制の順守 ･･･ P14
◆環境審査 ･･･ P17
◆環境教育・資格 ･･･ P18

第３章　地域とのコミュニケーション活動

◆その１
（リスクコミュニケーション） ･･･ P19
◆その２
（地域貢献） ･･･ P20

事業所の概要

福山事業所の概要

福山市は、広島県の東端に位置する都市で、県内では広島市に次いで２番目に大きい都市です。
福山事業所は、福山市の東側、岡山県との県境に位置しています。

名称	シャープ福山事業所 ｼｬｰﾌﾟ福山ﾚｰｻﾞｰ(株)／ｼｬｰﾌﾟﾌﾛﾝﾃｨｱｵｰﾄﾓｰﾃｨﾌﾞﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(株)
所在地	広島県福山市大門町旭１番地
設立年月	1985年（昭和60年）2月
従業員数	645人【2024年4月現在】
平均年齢	45.6歳【2024年4月現在】
勤務体制	4班2交替勤務、普通勤務
企画･開発･生産品目	半導体集積回路、半導体レーザー
敷地面積	約164,000㎡（約50,000坪）
地域区分	特別工業地区

春にはウグイスの鳴き声が聞こえる
緑豊かな場所に、1985年2月に福山工場が
稼働を始めました。

※広島マツダスタジアム（グラウンド面積）：13個分

【アクセス】
福山駅から山陽本線で大門駅まで約８分

福山市の紹介

福山城がある場所は、元々「蝙蝠山（こうもりやま）」と呼ばれており、「蝠」は「福」に通じることから「福山」と称されました。市章は、その蝙蝠と山をかたどってデザインされています。

2022年には福山城築城400年を迎え、様々な記念イベントが開催されました。

福山市の市章

自動車博物館

福山城

ふくやま美術館

鞆の浦

施設の紹介

福山事業所のあゆみ

1985年	2月	第一工場	稼働開始	1999年	1月	第四工場	稼働開始
1990年	3月	男子独身寮（ラポール寮）	完成	2011年	6月	技術センタービル	竣工
1996年	10月	センタービル	竣工	2020年	6月	一部敷地	売却
1997年	8月	スポーツセンター	竣工				

スポーツセンター

センタービル

特高変電所

技術センタービル

排水処理設備

テニスコート

ラポール寮
男子独身寮

製品の紹介

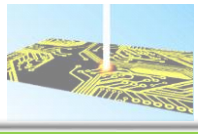
私たちの身近にある電化製品には、さまざまな電子デバイスが使用されています。
当事業所では、これらのデバイスの企画、開発、生産を行っています。

レーザー

RGB+IRのレーザーダイオードの開発と製造を行っており、
測量や建設で使われるレーザー水準器（Leveler）、ステージなどの
演出照明用ライト（Lighting）、フレキシブル基板の加工用の光源、
自動用テールランプ(Automotive)などの幅広い分野へ製品を提供している。

Leveler/Lighting

加工用Laser



Automotive

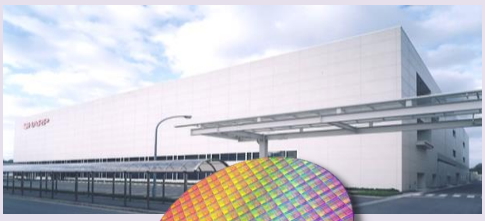
ICT

8Kエコシステム

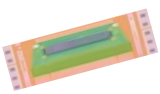
スマートライフ

半導体

200mm半導体工場にて、主に液晶ドライバIC、アナログIC、
およびパワーデバイス(IGBT)の受託製造サービスを提供しており、
顧客の製品の設計から製造に不可欠な技術サポートや品質保証などの支援を
行っている。



LCD Driver IC

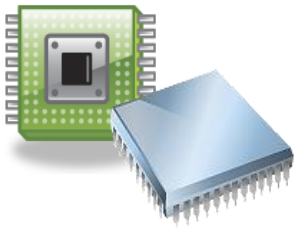


Analog IC

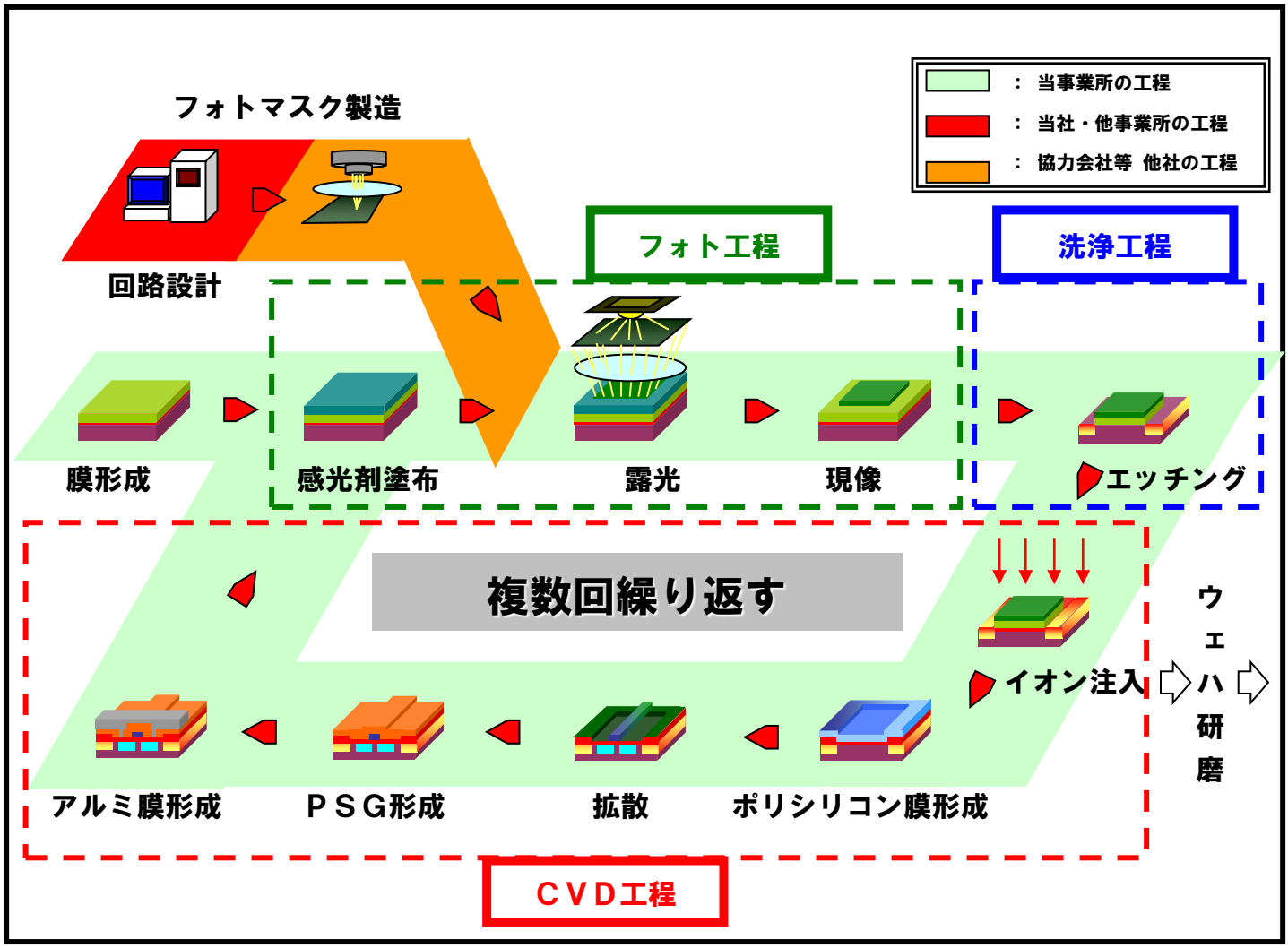
IGBT

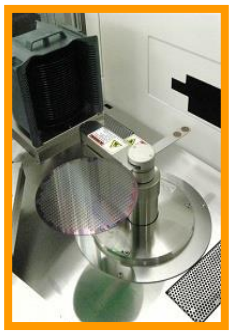
製造工程の紹介

ＬＳＩ（大規模集積回路）は、シリコンでできた薄い基板（ウェハ）上に、
何層もの回路パターンを形成して製造されています。

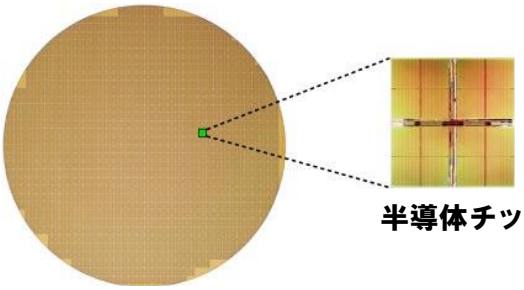


■ＬＳＩ製造の概略フロー





製造装置の写真



半導体チップの写真

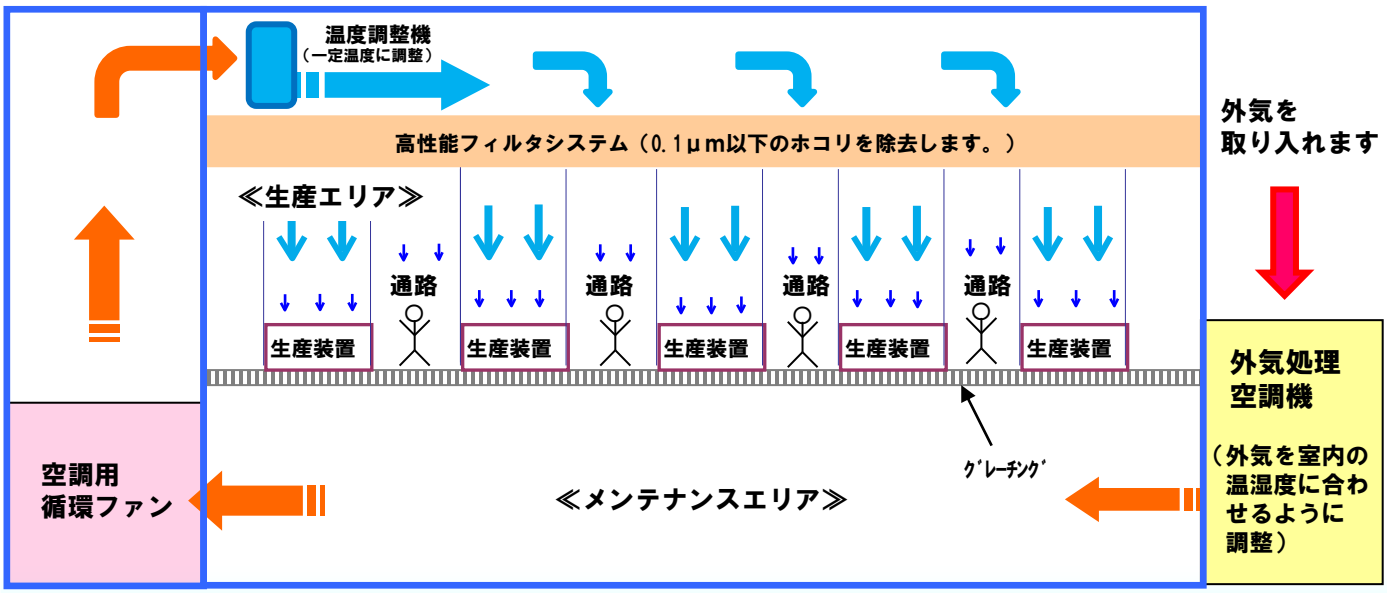
半導体ウェハの写真

※写真はイメージです

電子デバイスは、微細加工※により回路を形成するため、ほこりがほとんど無く、常に一定の温湿度(室温:24℃前後、湿度:約45%)に保たれた“クリーンルーム”と呼ばれる空間で作られています。

(※髪の毛の1/1000ほどの細い配線で回路を形成)

クリーンルーム



生産エリアと通路を区切ることで、ほこりの侵入を防いでいます。

クリーンルームの維持には多大なエネルギーが消費されるため、私たちは継続的な効率改善に取り組み、大きな省エネを実現しています。
その成果については、11ページをご覧ください。

■実際のクリーンルームの紹介

【通路】
生産エリアへのほこりの侵入を防ぐため、このように区分しています。

室温:24℃前後
湿度:約45%

【作業者】
ほこりの発生を防ぐため、作業者は全員、宇宙服のような防塵服を着用しています。

環境方針

福山事業所では、事業活動を行うにあたり、
シャープグループ環境基本理念『誠意と創意をもって「人と地球にやさしい企業」に徹する』、
シャープグループ長期環境ビジョン『SHARP Eco Vision 2050』
に基づき、以下の取組みを推進し、環境汚染の予防は勿論のこと、環境保全活動の深耕と継続的改善を図り、企業としての責任を果たします。

（1）環境配慮型商品（製造段階から廃棄段階までの環境影響を最良化した商品）／高機能･高付加価値商品（社会生活の向上に寄与する商品）の創出

（2）環境と調和する事業活動の推進

①地球温暖化防止対策の推進
②廃棄物適正管理の推進
③化学物質適正管理の推進
④水使用量適正管理の推進

（3）適用可能な環境法規制並びに事業所が同意するその他の要求事項の順守

（4）環境マネジメントシステムの強化と継続的改善

（5）環境目的及び目標の設定と定期的見直し

（6）社内教育・啓発の充実

①従業員への定期的な教育・研修の実施
②環境影響を配慮すべき業務従事者への教育・訓練の実施

（7）社外コミュニケーションの推進

①地域社会とのコミュニケーション活動の推進
②環境情報の公開
③間接的影響を及ぼすことができる関連各社への環境啓蒙活動の推進

（8）社会貢献活動の推進

①生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取組みの推進
②地域社会に貢献するボランティア活動の推進
③社内で開発し蓄積した環境関連技術の社会への提供

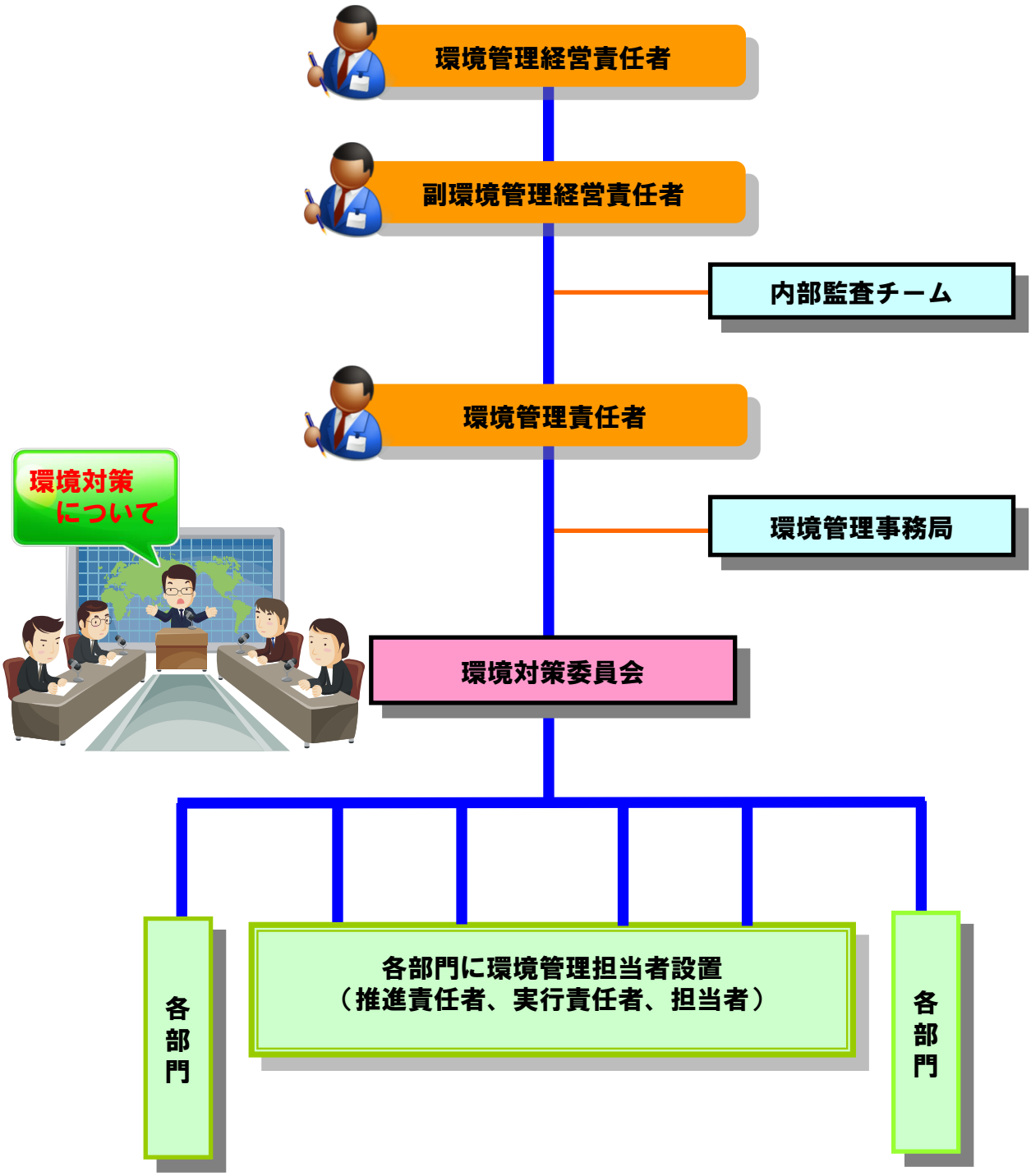
尚、環境方針書は、事業所内で働く全ての人に周知徹底するとともに、環境サイトレポートに掲載・配布する等により外部に公開します。

2021年9月
シャープ福山事業所
環境管理経営責任者　蔡 正茂

環境管理推進体制

福山事業所では、 環境管理経営責任者をトップとし、全員参加の環境管理活動を推進しています。
環境対策委員会では、環境管理活動の内容について審議を行い、その結果を各部門に周知徹底しています。

【2024年4月現在】



2023年度環境負荷状況

福山事業所の事業活動に伴う環境負荷（環境に与える影響）の主なものには、エネルギーの使用、水の使用、化学物質の使用、大気へのCO_2 ※1）、排ガスの排出、排水放流、廃棄物の排出などがあります。

私たちは、これらの環境負荷を把握し、可能な限り低減するための施策を実施することにより、環境に優しい、より良い製品づくりを目指しています。

■インプット(使用量)／アウトプット(排出量)の2023年度実績

【年間】

インプット

エネルギー

総ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量　834,390GJ
（原油換算　21,527kL）
【一般家庭　21千 世帯分に相当】

《内訳》
電気エネルギー　96,680MWh
都市ガス（13A）　525km³

水

総水使用量　1,635km³
【一般家庭（上水）5.2千 世帯分に相当】
【東京ドーム　1.3個分に相当】

《内訳》
工業用水　1,610km³
上水　25km³

化学物質

硫酸・フッ酸・硝酸・リン酸（酸性薬液）
アンモニア水・現像液（アルカリ性薬液）
特殊高圧ガス
PFCガス※4）　12.1ｔ（ガス）
PRTR※5）対象物質　70.8ｔ

（他社への供給分を一部含む）

アウトプット

大気系への排出

温室効果ガス排出量（CO_2換算）
エネルギー起源　40,406ｔ-CO_2
その他起源（PFC類）32,240ｔ-CO_2
NOx※2）排出量　331kg

＊）CO2換算係数
電気　0.435ｔ-CO_2/MWh
＜電気事業低炭素社会協議会公表係数の一作年（2021年）値＞
都市ガス（13A）　2.244ｔ-CO_2/km³
＜福山ガスの性状（発熱量）データより算出＞

PRTR対象物質　41kg

排水

排水量　1,640km³
COD※3）排出量　4.3ｔ
窒素排出量　35.3ｔ
リン排出量　0.0ｔ以下
PRTR対象物質　0.0ｔ

廃棄物

廃棄物排出量　1,064ｔ
内、汚泥　835ｔ
埋立最終処分　0.0ｔ
【一般家庭　1.1千 世帯分に相当】
PRTR対象物質　18.5ｔ

（他社からの受入分を一部含む）

※1）CO_2:二酸化炭素　　※2）NOx:窒素酸化物　　※3）COD:化学的酸素要求量(水質汚濁の指標の一つ)

※4）ＰＦＣガス：半導体の製造工程で用いるガスの一種であり、地球温暖化の要因となるガスでもあります。
その温暖化効果は二酸化炭素よりも数千倍から数万倍高いとされています。

※5）ＰＲＴＲ：Pollutant Release and Transfer Registerの略称
PRTR法は、特定化学物質の環境への排出量の把握や管理の改善を促進する法律です。

2023年度環境取り組み目標と活動結果

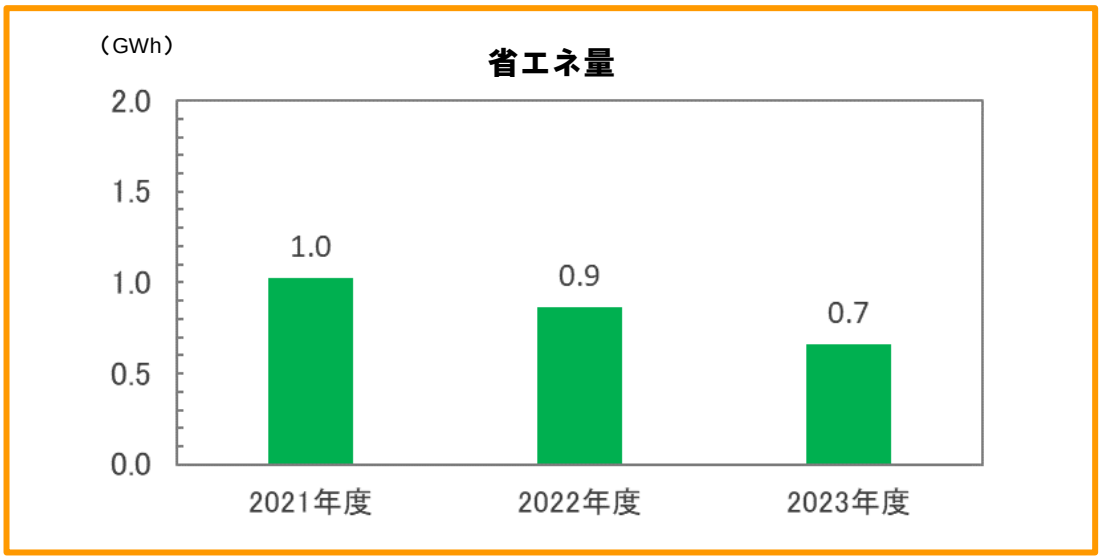
私たちは年度ごとに環境目標を定め、環境負荷低減活動を推進しています。
2023年度には６つの項目を設定し、取り組んでおり、全項目において目標を達成しました。

環境目的	2023年度目標	実績	評価	2024年度目標
①温室効果ガスの削減 ・原単位の改善 ・温室効果ガス排出量の削減	・温室効果ガス排出量 総処理枚数原単位 0.5870 t-CO_2/千枚 （22年度原単位の1%改善） ・温室効果ガス排出削減量 ▼202 t-CO_2 （稼働影響を受けない固定分ｴﾈﾙｷﾞｰ起因 22年度排出量の1%削減）	・温室効果ガス排出量 総処理枚数原単位 0.5261 t-CO_2/千枚 ・温室効果ガス排出削減量 ▼232 t-CO_2	○	・温室効果ガス排出量 総処理枚数原単位 0.5208 t-CO_2/千枚 （23年度原単位の1%改善） ・温室効果ガス排出削減量 ▼219 t-CO_2 （稼働影響を受けない固定分ｴﾈﾙｷﾞｰ起因 23年度排出量の1%削減）
ＣＮ（ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙ）に関する意識向上と取り組みの推進	・ＣＮに関する知識向上 ・取り組みの検討	・最新情報を発信 （環境目的⑤の取組で推進） ・ＣＮの施策立案を各部門に依頼	○	・ＣＮに関する知識向上 ・取り組みの検討
②廃棄物の排出抑制／再資源化 最終処分率 ０．１%以下の維持	最終処分率 ０．１%以下	最終処分率 ０．０%	○	最終処分率 ０．１%以下
ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環に関する意識向上と取り組みの推進	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環に関する知識向上 ・取り組みの検討	・最新情報を発信 （環境目的⑤の取組で推進） ・ﾌﾟﾗ資源循環の施策立案を各部門に依頼	○	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環に関する知識向上 ・取り組みの検討
③-1 新規化学物質の適切な導入判断	１００% 実施	１００% 実施	○	１００% 実施
③-2 ＰＲＴＲ対象物質の適正管理	2000年度排出量の ２%以下継続	2000年度排出量の １%以下	○	2000年度排出量の ２%以下継続
④環境配慮型商品（GD）／高機能・高付加価値商品の創出	環境配慮型商品／高機能・高付加価値商品の開発と普及拡大 ＧＤ※6)等開発機種数 ５２機種以上	環境配慮型商品／高機能・高付加価値商品の開発と普及拡大 ＧＤ等開発機種数 ６１機種	○	環境配慮型商品／高機能・高付加価値商品の開発と普及拡大 ＧＤ等開発機種数 ３６機種以上
⑤従業員の環境知識・意識向上	環境教育の実施 環境マインド研修、内部監査員研修受講者数 ５３４名	環境教育の実施 環境マインド研修、内部監査員研修受講者数 ５７０名	○	環境教育の実施 環境マインド研修、内部監査員研修受講者数 ５７３名
	ＣＮ、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環に関する情報の周知　２回	最新情報を発信 ２回	○	ＣＮ、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環に関する情報の周知　２回
⑥環境保全・地域貢献活動等の推進	・地域貢献活動の継続実施 ・農業体験を通じた緑化意識醸成	・福山市主催一斉清掃他、ボランティア活動に参加 ・農業体験を通じ緑化意識を醸成	○	・地域貢献活動の継続実施 ・農業体験を通じた緑化意識醸成

※6）ＧＤ（グリーンデバイス）：環境性能に優れたデバイス開発に関する社内規格

エネルギー使用量の削減

福山事業所では、電気や都市ガスなどのエネルギーについて日々管理を行い、積極的に省エネルギー活動を推進しています。2023年度の省エネルギー量は 0.7ＧＷｈとなりました。



＊電気及び都市ガスの省エネ量を電力量(GWh)に換算。

〈2023年度の取り組み事例〉

生産装置での電力削減の取り組み

生産装置用真空ポンプの低電力タイプへの置換に取り組みました。

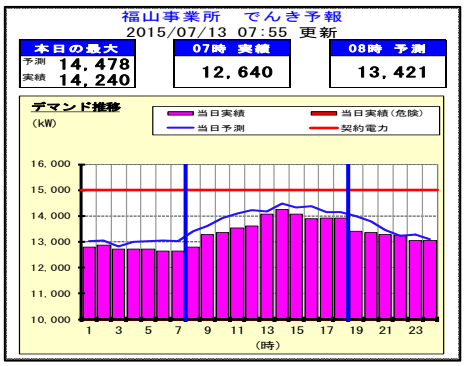
工場ユーティリティ設備での電力削減の取り組み

冷凍機、冷却水ポンプ更新（高効率化）、冷凍機停止（蒸気加温へ変更）による電力削減に取り組みました。

〈これまでの主な取り組み事例〉

① 『でんき予報』公開による「電力の見える化」（夏季の電力ピークカット）	［12年度～］
② 業務用パソコン使用電力の削減	［13年度］
③ 無停電電源（UPS）の集中供給による電力削減	［14年度］
④ 生産装置待機温度低減による電力削減	［15年度］
⑤ 生産装置熱ロス低減による電力削減	［16年度～］
⑥ 生産装置用真空ポンプ置き換えによる電力削減	［17年度～］
⑦ 生産装置用CRTモニタ置換（液晶化）による電力削減	［18年度～］
⑧ 生産装置用真空ポンプの冷却水量低減による電力削減	［20年度～］
⑨ 工場内給排気設備更新、インバータ稼働による電力削減	［20年度～］
⑩ 生産装置用高周波電源の後継品への更新による電力削減	［21年度～］

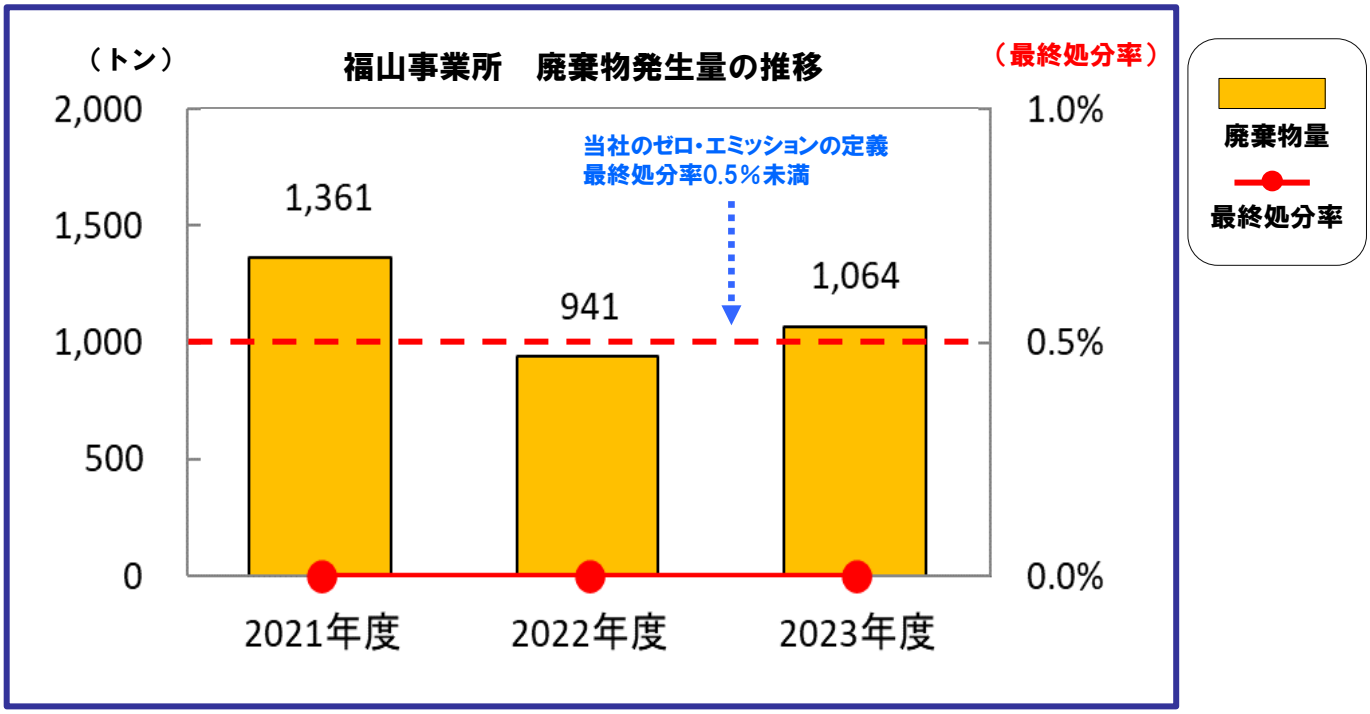
①「電力の見える化」取り組み
（12年度から継続）



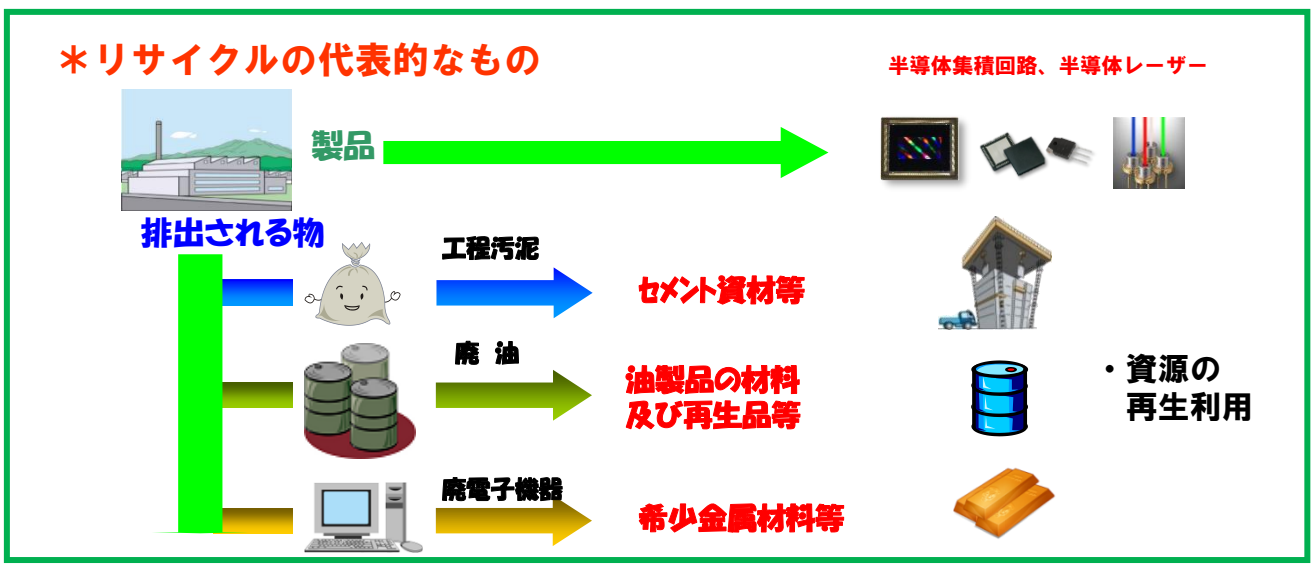
（事業所内ホームページで公開）

廃棄物に関する取り組み
廃棄物の適正管理・削減・資源の有効利用促進

2023年度の福山事業所の廃棄物は1,064トン/年でした。最終処分率は、0.0%となり、2001年度からゼロ・エミッションを維持しています。



福山事業所では、発生する廃棄物を再資源化（リサイクル）し、資源の有効利用に努めています。また、適正に処分されていることを確認するため、処分会社の定期監査を実施しています。



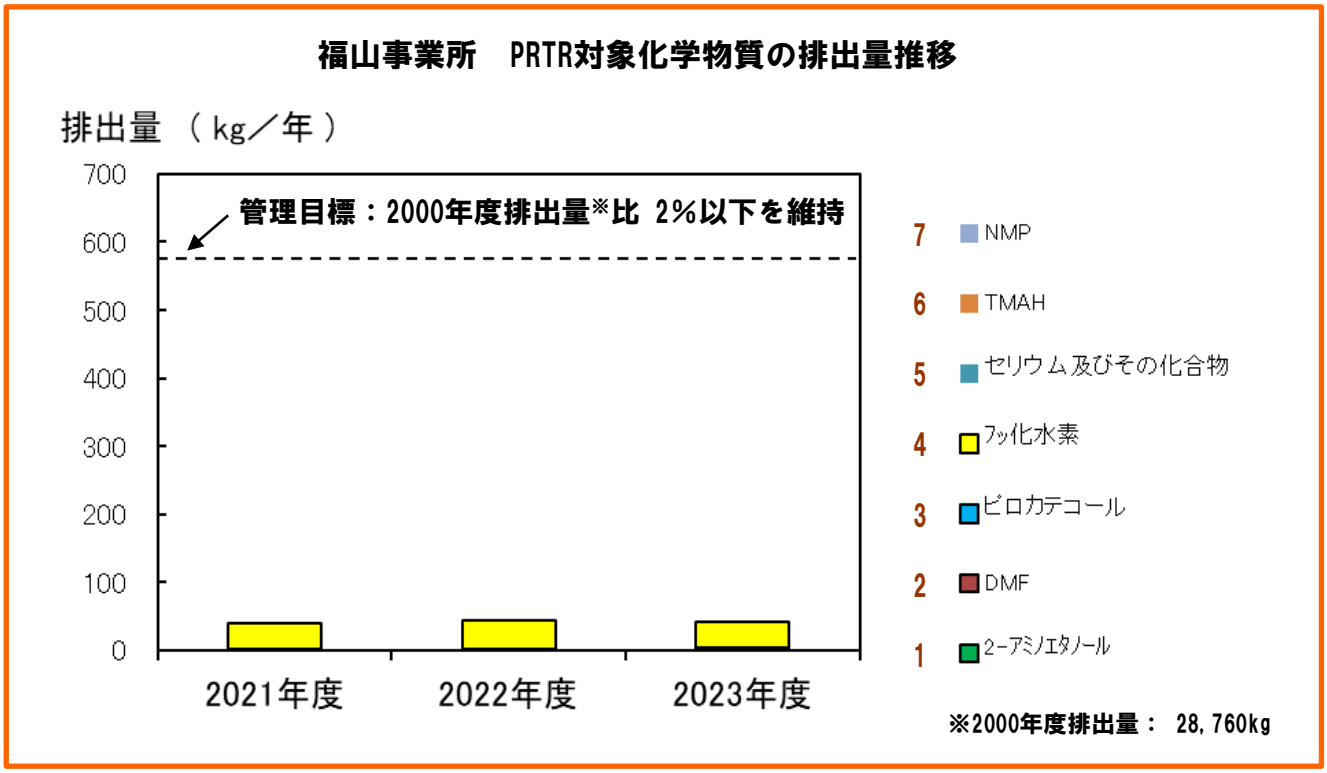
ワンポイント講座

ゼロエミッションとは

生産、流通、消費、廃棄の各段階で排出物を限りなくゼロに近づけることにより、「循環型社会」を構築しようという考え方です。

化学物質に関する取り組み
ＰＲＴＲ対象物質の適正管理

2000年にPRTR法が施行されて以降、対象物質の代替化や排出量の削減に取り組んできました。現在は、現状レベルの維持（2000年度比 2%以下）を目標に、対象物質の適正管理を推進しています。



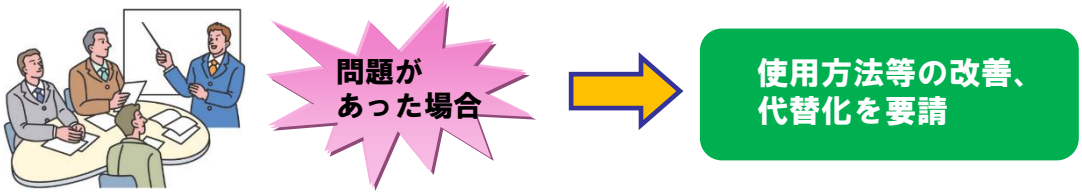
2023年度PRTR対象物質の排出量等内訳

【単位：kg】

	化学物質	取扱量	排出量				移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
			大気への放出	公共用水への放出	土壌排出、埋立て処分	計	廃棄物に含まれて事業所外へ移動			
1	2-ｱﾐﾉｴﾀﾉｰﾙ	13,448	3	0	0	3	13,246	0	199	0
2	N,N-ｼﾞﾒﾁﾙﾎﾙﾑｱﾐﾄﾞ（DMF）	26,082	0	0	0	0	0	0	26,082	0
3	ﾋﾟﾛｶﾃｺｰﾙ（別名ｶﾃｺｰﾙ）	1,793	0	0	0	0	1,793	0	0	0
4	ﾌｯ化水素及びその水溶性塩	24,336	39	0	0	39	0	0	24,297	0
5	セリウム及びその化合物	830	0	0	0	0	830	0	0	0
6	テトラメチルアンモニウム＝ヒドロキシド（TMAH）	1,790	0	0	0	0	122	0	1,667	0
7	N-メチル-2-ピロリドン（NMP）	2,481	0	0	0	0	2,467	0	14	0

化学物質の適正管理

新たな化学物質（薬液、ガス等）を導入する際は、事業所で定めた「化学物質事前審査制度」に基づき、使用段階から廃棄処理に至るまでのさまざまなリスクについて審査を行い、問題がないと判断した化学物質についてのみ、事業所内での使用を許可しています。



環境法規制の順守

水質について、2023年度もすべての社内管理値を下回る結果となっています。

排水水質測定実績

評価　○：社内管理値以下　×：社内管理値超

項目	単位	規制値（最大値）				2021年度実測値（最大値）	2022年度実測値（最大値）	2023年度実測値（最大値）	評価
		法（国）	条例（県）	協定（市）	社内管理				
水素イオン濃度（水素指数）（ｐＨ）	－	海 5.0～9.0	海 5.5～9.0	海 5.8～8.6	6.0～8.4	6.6～7.5	6.8～7.2	6.6～7.2	○
化学的酸素要求量（ＣＯＤ）	mg／L	160	130	15	10以下	4	4	3	○
浮遊物質量（ＳＳ）	mg／L	200	200	20	10以下	3	3	3	○
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質含有量（鉱油類）	mg／L	5	5	－	2.5以下	不検出	不検出	不検出	○
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質含有量（動植物油脂類）	mg／L	30	20	－	15以下				
フェノール類含有量	mg／L	5	5	－	2.5以下	不検出	不検出	不検出	○
銅含有量	mg／L	3	3	－	1.5以下	不検出	不検出	不検出	○
亜鉛含有量	mg／L	2	2	－	1以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満	○
溶解性鉄含有量	mg／L	10	10	－	5以下	不検出	不検出	不検出	○
溶解性マンガン含有量	mg／L	10	10	－	5以下	不検出	不検出	不検出	○
クロム含有量	mg／L	2	2	－	1以下	不検出	不検出	不検出	○
大腸菌群数	個／mL	3,000	3,000	－	1,500以下	1	3	3	○
窒素含有量	mg／L	120	120	－	40	32	37	36	○
燐含有量	mg／L	16	16	－	1以下	0.1	0.1	0.1	○
六価クロム化合物	mg／L	0.5	0.5	0.25	0.05	0.02	不検出	不検出	○
ほう素及びその化合物	mg／L	230	230	115	2.3	0.1未満	0.1未満	0.1未満	○
ふっ素及びその化合物	mg／L	15	15	15	7.5以下	6.5 年平均2.7	5.0 年平均2.7	5.2 年平均2.5	○
ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg／L	100	100	50	20	14	14	19	○
窒素汚濁負荷量総量規制	ﾄﾝ／年	227	－	－	204	34	39	35	○
リン汚濁負荷量総量規制	ﾄﾝ／年	19	－	－	17	1未満	1未満	1未満	○
COD汚濁負荷量総量規制	ﾄﾝ／年	36	－	－	32	4	5	4	○

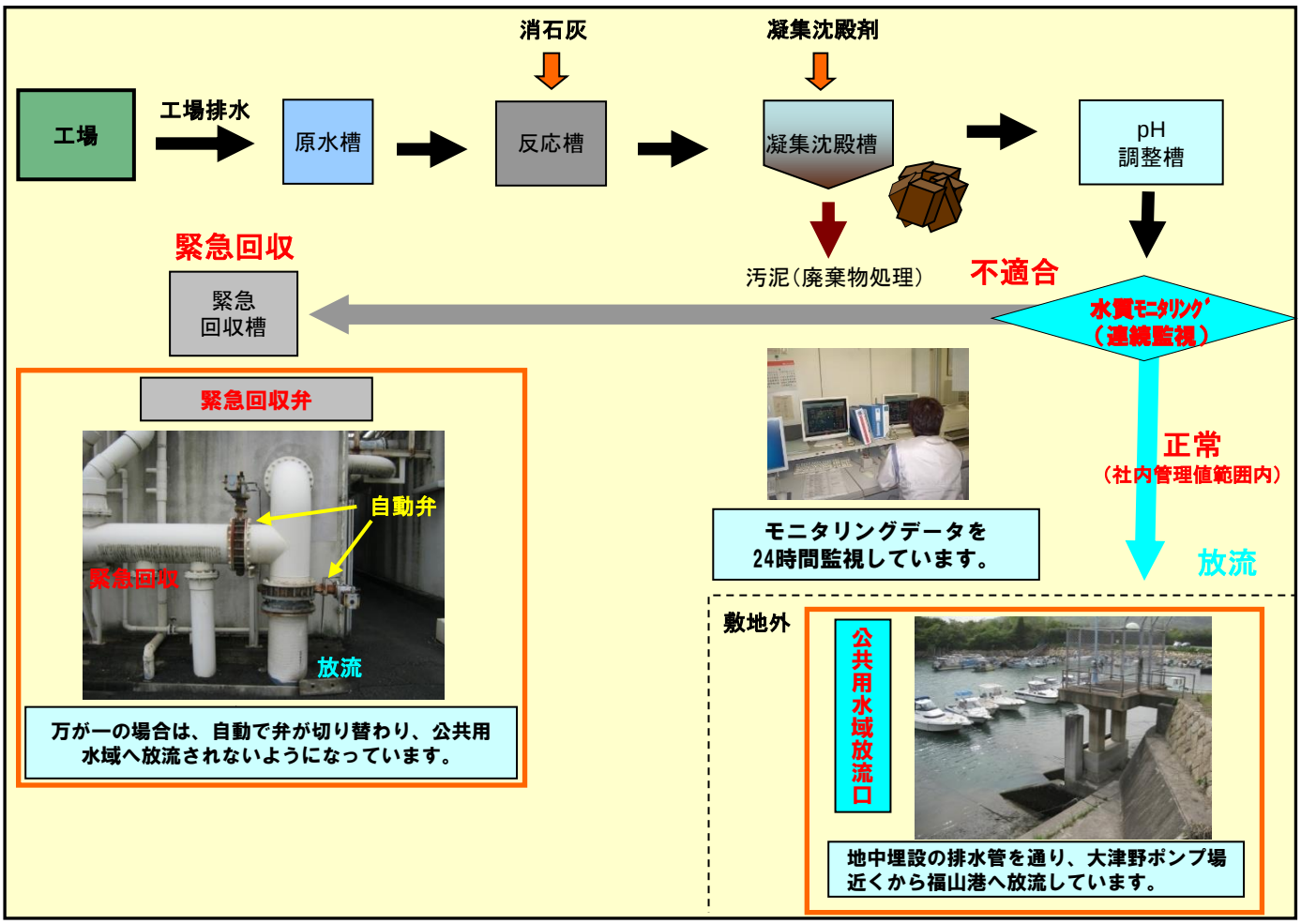
●以下の健康項目は、全て定量下限値以下（検出されません）でした。
カドミウム及びその化合物、シアン化合物、有機燐化合物、鉛及びその化合物、砒素及びその含有物、水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物、アルキル水銀化合物、ポリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン及びその化合物、1,4-ジオキサン

福山事業所では、 各種法令や県・市条例で規制された物質について、福山市との協定による規制値よりも厳しい社内管理値を設け、測定実施しています。

《福山事業所における排水水質の規制について》

瀬戸内海は、本州、四国、九州に囲まれ、外海との水の交換が行われにくいため、水質改善が難しい閉鎖性水域と呼ばれています。そのため、国は水質保全のために水質汚濁防止法のほか、瀬戸内海環境保全特別措置法を制定しました。また、福山市では一定量以上の排水を瀬戸内海へ放流する工場･事業場に対し、環境保全協定を締結するなどの政策を行っています。

排水処理システム簡易フロー



大気、騒音・振動、悪臭について、2023年度もすべての社内管理値を下回る結果となっています。

大気測定実績

評価　○：社内管理値以下　×：社内管理値超

項目	単位	規制値（最大値）				2021年度実測値（最大値）	2022年度実測値（最大値）	2023年度実測値（最大値）	評価
		法（国）	条例（県）	協定（市）	社内管理				
窒素酸化物	ppm	150	－	100	80	65	43	79	○
ばいじん	mg／Nm³	100	－	50	25	1	不検出	不検出	○
フッ化水素	mg／Nm³	－	2.5	1.25	0.63	不検出	不検出	不検出	○
硫酸	mg／Nm³	－	10	5.0	2.5	0.1	0.1	0.1	○

悪臭物質測定実績

評価　○：社内管理値以下　×：社内管理値超

項目	単位	規制値（最大値）			2021年度実測値（最大値）	2022年度実測値（最大値）	2023年度実測値（最大値）	評価
		条例（県）	協定（市）	社内管理				
アンモニア	ppm	1以下 ※a）	― ※b）	0.1以下	0.2 ※c）	0.1	0.1	○

※a）臭気指数基準は 「15」 となります。

※b）協定（市）では、付近住民の多数が不快と感じないよう十分な防止対策を講じることが定められています（協定書）。

※c）関連設備の対策後に「不検出」を確認しています。

騒音･振動測定実績

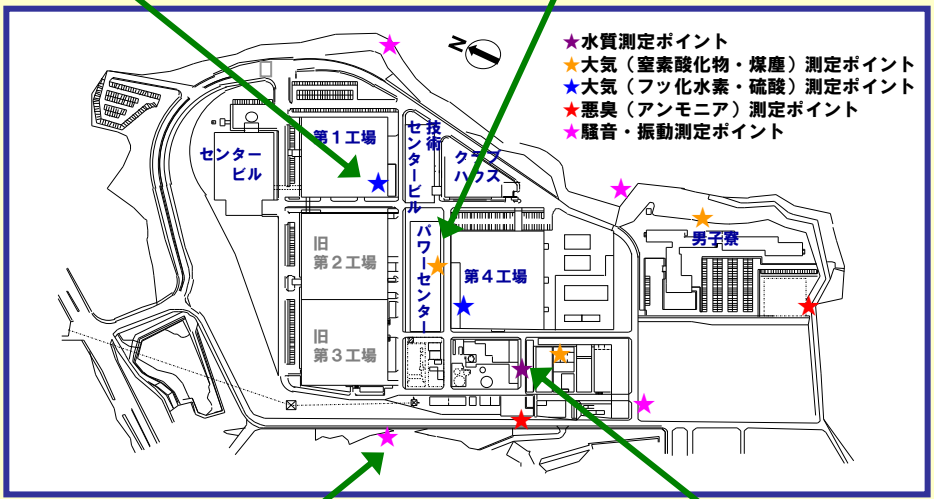
評価　○：社内管理値以下　×：社内管理値超

項目	区分	単位	規制値（最大値）				2021年度実測値（最大値）	2022年度実測値（最大値）	2023年度実測値（最大値）	評価
			法（国）	条例（県）	協定（市）	社内管理				
騒音	朝	dB	70以下	70以下	50以下	50以下	46	46	46	○
	昼	dB	70以下	70以下	55以下	55以下	45	44	46	○
	夕	dB	70以下	70以下	50以下	50以下	45	46	46	○
	夜間	dB	60以下	60以下	45以下	45以下	44	43	43	○
振動	昼	dB	65以下	―	60以下	45以下	30未満	30未満	30未満	○
	夜間	dB	60以下	―	55以下	45以下	30未満	30未満	30未満	○

環境測定ＭＡＰ

（スクラバー）

（ボイラー）



（騒音測定風景）

（水質測定場所）

環境審査

福山事業所では、１９９６年にＩＳＯ１４００１の認証を取得し、毎年外部審査機関による環境審査を受けて、２７年間認証を継続しています。また、事業所全体に対しては、シャープ社内資格を取得した内部監査員による環境内部監査を実施し、環境マネジメントシステムの改善と向上を推進しています。

■環境外部審査

ISO14001登録書

《外部審査機関による審査の様子》

審査受審： 2023年7月26日～7月28日

登録更新日：2023年9月24日（初回登録日：1996年9月24日）
有 効 期 限：2026年9月23日

■環境内部監査

毎年、各部門の環境活動および管理がISO14001に適合しているか確認するため、環境内部監査を実施します。

監査では、指摘するだけでなく、一緒に
改善策を考えたり、改善提案を行い、
環境マネジメントシステムの向上を図ります。

《環境内部監査員教育会》

内部監査を実施するにあたり、
当年度の監査のポイントについて
教育を実施します。

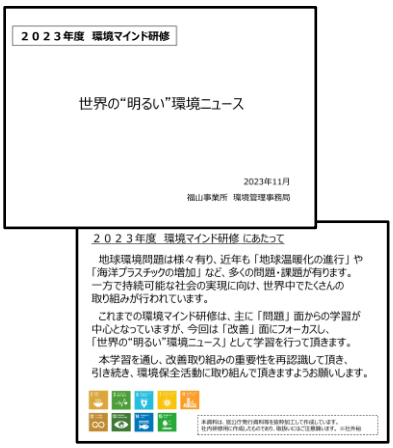
環境教育・資格

当事業所では、従業員の環境マインド醸成を目的とした一般教育を実施し、薬液・ガスを取り扱う人には専門教育を行っています。また、緊急時を想定した対応についても教育・訓練を実施しています。

■環境教育

対象者	主な実施内容
全従業員	環境マインド研修 （従業員の環境意識を高める為のweb研修）
	環境ワンポイントレッスン発行 （環境問題や最新情報を解かりやすく解説）
	社内ホームページで情報発信 （環境マネジメントシステム関連情報、法順守データ等）
	最新規制動向等の教育 ＣＮ（カーボンニュートラル）／プラスチック資源循環

〔環境マインド研修資料〕



■緊急事態対応訓練

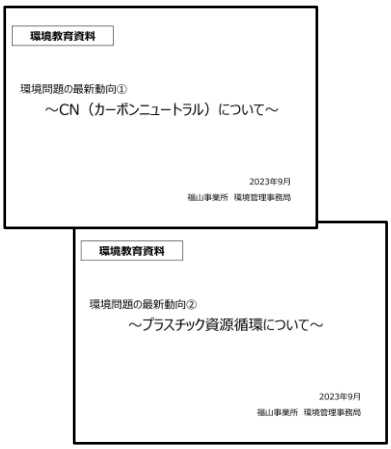
緊急事態を想定し、各人の役割と責任を明確化した上で、工場外への環境影響を防止するために訓練を実施しています。

防火防災訓練：
2023年度は、各建屋での火災発生を想定し、建屋ごとに実践に近い形で『防火・防災訓練』を実施しています。

その他教育・訓練も継続実施中です。

◇ガス漏洩時の教育・訓練　◇停電・瞬時電圧低下時の教育・訓練
◇薬液漏洩時訓練　◇社内管理値の超過発生時の教育・訓練
◇緊急保護具装着扱い教育・訓練

〔環境教育資料〕



■環境関連資格

福山事業所では、法律で制定された資格や環境教育に関する資格など、さまざまな資格の積極的な取得を推奨しています。

有資格者　【2024年4月現在】

資　格	有資格者	資　格	有資格者
公害防止管理者（大気）	４名	危険物取扱者（乙４種）	１３３名
公害防止管理者（水質）	３名	有機溶剤作業主任者	１８４名
エネルギー管理士	３名	特定化学物質等作業主任者	１７２名
特別管理産業廃棄物責任者	１２名	毒物・劇物取扱責任者	７名
ボイラー技士（１級）	１６名	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 ※	２０名
ボイラー技士（２級）	２２名	環境社会検定（eco検定）	１２３名
危険物取扱者（甲種）	５名	環境内部監査員	１９名

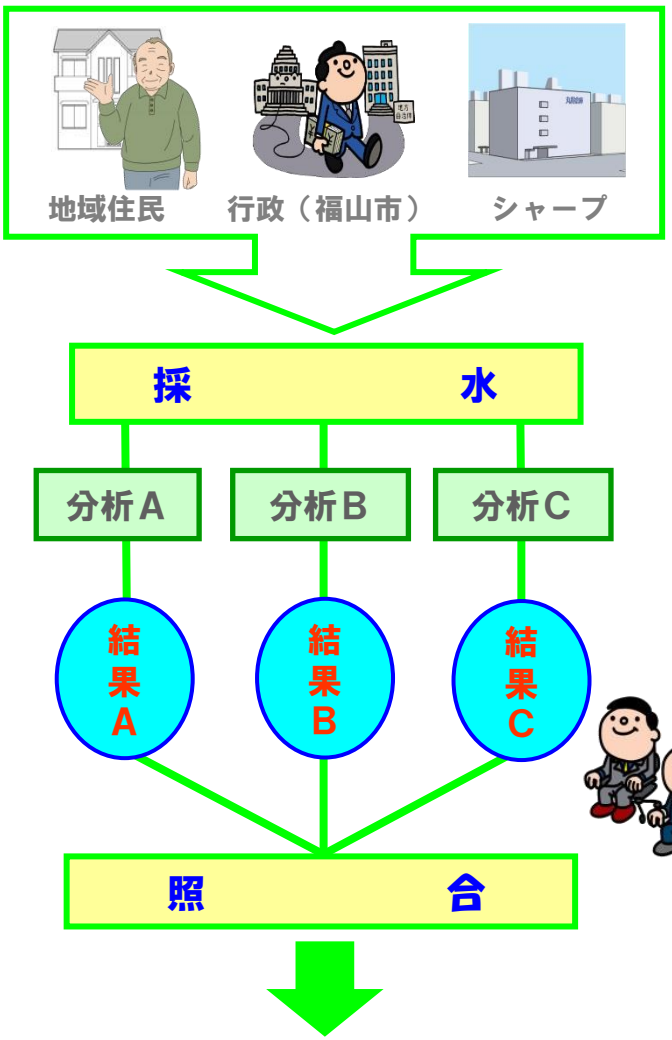
※酸素欠乏危険作業主任者も含む。

地域とのコミュニケーション活動 その１（リスクコミュニケーション）

福山事業所では、積極的に地域住民の皆さんとのコミュニケーションを推進するため、33年前から「地域住民（野々浜学区）、行政（福山市）・シャープ」の三者による事業所排水の採水測定を行っています。

三者が集まって排水を採水し、地域と行政の皆様がそれぞれ測定機関にて分析を行い、後日その結果を持ち寄り確認しています。

◆◆◆　三者採水のフロー　◆◆◆



問題がないことを全員で確認

《三者による採水風景》

（2023年5月17日実施）

《照合の様子》

（2019年7月24日実施）

新型コロナウイルスの影響により、
照合については近年中止としています。

三者が集まり、排水に関する話だけでなく、さまざまな意見を交換できる機会の一つとなっています。

ワンポイント講座

リスクコミュニケーションとは

事業者が地域の行政や住民と情報を共有し、リスクと上手に付きあえるようにするためのコミュニケーションを実施することです。

その２（地域貢献）

■近隣清掃活動

地域社会貢献活動の一環として、福山市主催の清掃活動や、事業所独自の近隣清掃活動に取り組んでいます。

活動項目
福山全市一斉清掃、 大門町一斉清掃及び近隣主要道路清掃

《福山全市一斉清掃（2023年度）》

■緑化意識醸成

福山事業所では、屋外での農作業を通じて土に触れることにより、従業員やその家族の心と体の健康増進、リフレッシュを促すことを目的に、ＳＧＣ※7）活動とも連携した労使共催の『シャープ福山アカデミーファーム』を開園しています。
事業所敷地内で皆で畑を耕し、種をまき、大きくなったら家庭に持ち帰ったり、食堂に提供するなど、「農業体験を通じた緑化意識醸成」の取り組みを推進しています。

※7）ＳＧＣ（シャープグリーンクラブ）：国内のシャープグループ全従業員一人ひとりが身近な環境問題と向き合い、自らの環境保全意識を高められるよう、労使が協調して地域に密着した環境ボランティア活動を企画・運営することにより、社会的責任の一端を果たすことを目的とした任意団体です。

SHARP

◆問合わせ先◆

シャープ福山レーザー株式会社
UTTサービス部

〒721-8522
広島県福山市大門町旭１番地
TEL:　050-5433-1428
E-mail: fukuyama.kankyoh@list.sharp.co.jp